

制作概要

対象物の図像は見えてはいるが何が描かれているか判明せず、視点を変えて見ることでその図像が判明する。その時の驚きと興味は時空を超えて遊び絵や判じ絵として親しまれてきた。例えば、ある図像を左右に大きく引き延ばした場合、正面から見るよりも横から見た方がよく解る。しかし、実際は視点から左右の距離の差があるため正確な図像のプロポーションとは言えない。そこで視点の高さを決め、距離に比例して拡大すると正像に見える図式がニセロン等によって示された（1638年）。視点からの距離に反比例して縮小する線遠近法とは対極にある表現である。16世紀頃からこのような台形アナモルフォーズ（歪像画）が制作されはじめた。イタリアの聖トリニダ・ディ・モンティ教会の壁面に描かれた「聖フランチェスコ」はアナモルフォーズの現存する最古の壁画である（1642年）。それは正面からは牧歌的な風景が、横からは人物（聖フランチェスコ）が見える多義図形にもなっている。これらは平面に描かれたアナモルフォーズを違った角度から見た人だけが味わえる隠し絵ともいえる。

一方、円筒形の鏡などに写して正像を見るアナモルフォーズの歴史も古く、チャールズ一世を映し取る作品は16世紀のものである。ルーツは中国といわれているが、その後ヨーロッパに渡り、日本にも伝来した。江戸時代後期に円筒形の鏡の代わりに刀の鞘に写す鞘絵として普及した。花魁のアナモルフォーズを描いた一勇齋国芳の「風流鞘繪」の詞書には「・・・鞘に限らず細長く艶のあるものに写せば・・・」とある。円筒形の鏡の代用になる身近なものを充当して楽しんだようである。

さて、この円筒形の鏡を使ったアナモルフォーズは現在も絵本、遊び絵、広告用のP.O.P.、環境アートなど、さまざまな分野で目にすることができる。これをグラフィックデザインに応用できないかと試作したのが次ページの作品である。

小川 忠彦

メール・アナモルフォーズの制作

番画廊（大阪）

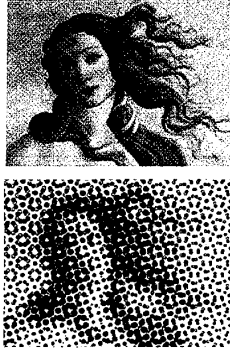
アナモルフォーズ（歪像画）を映す鏡は円筒形が一般的で、17世紀に頻繁に制作された。20世紀後半には円錐鏡やピラミッド鏡などが現れた。そこで、これらの他に逆円錐鏡、2本の円筒鏡ではどのように映るのか試作してみた。

アナモルフォーズ制作プロセス

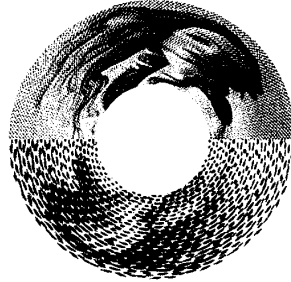
① 原図



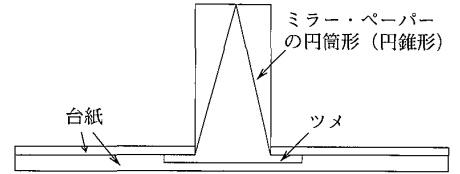
② 原図をドットに分解



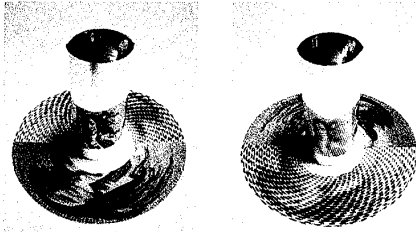
③ photoshop（極座標）で画像加工



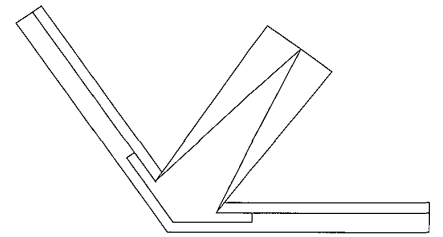
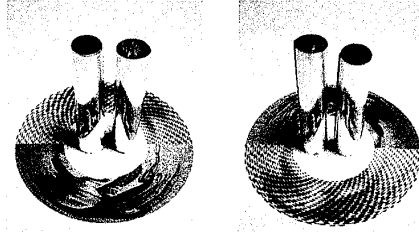
④ ミラー・ペーパーで円筒形（円錐形）を作り、その底部のツメを台紙に貼り付け固定する。台紙の開閉で折り畳める。



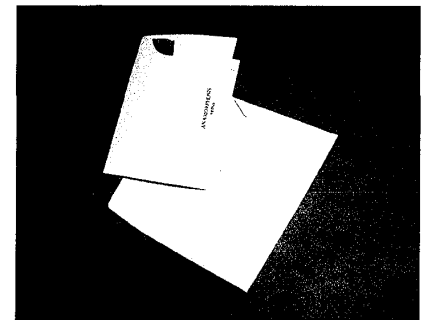
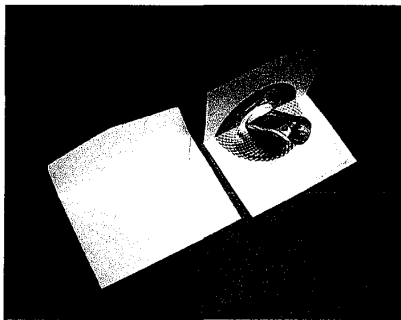
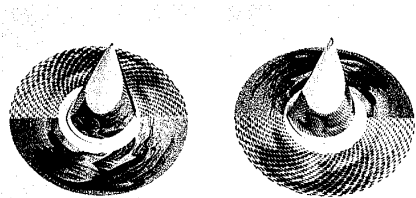
⑤ 鏡が円柱の場合



⑥ 鏡が2つの円柱の場合

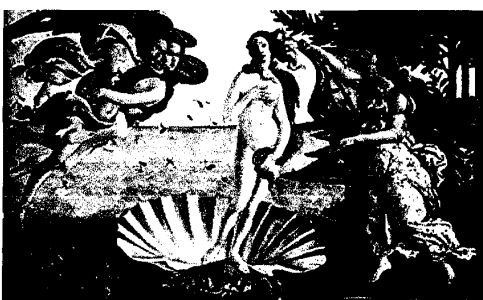


⑦ 鏡が円錐の場合



折り畳むことができ、封筒に入れて郵送すれば、ポスト・カードやDMとしても使える。

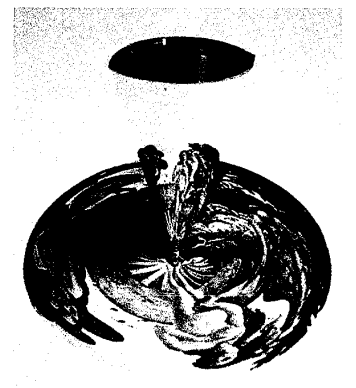
① 原図

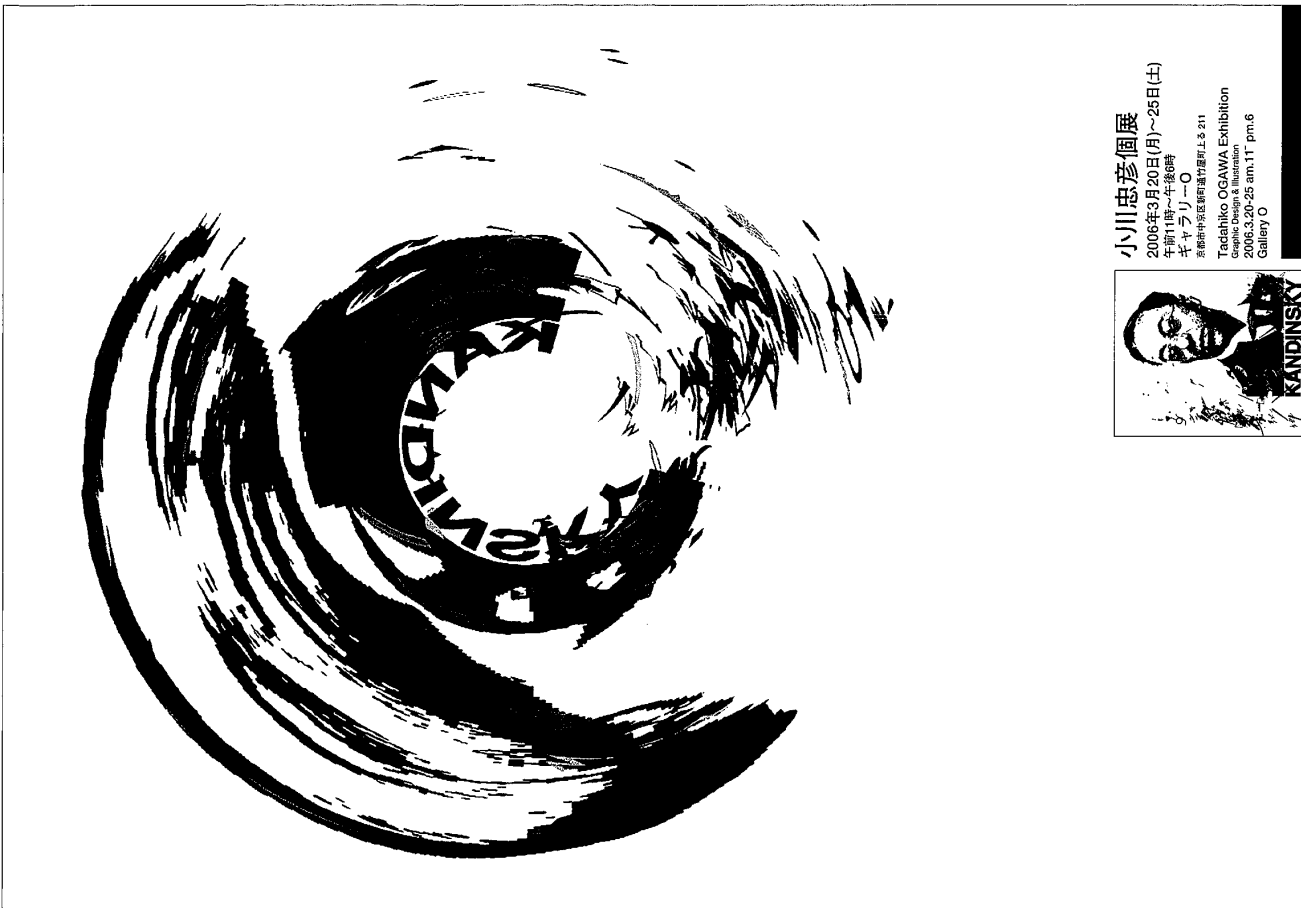


② photoshop（極座標）で画像加工



③ 鏡が逆円錐の場合





小川忠彦個展

2006年3月20日(月)~25日(土)

午前11時~午後6時

ギャラリーO

京都府中京区新町通御所上2-211

Tadshiko OGAWA, Exhibition

Graph, Paper & Ink on Canvas

2006.3.20-25 am.11, pm.6

Gallery O

小川忠彦

個展ポスター

2006年

1030mm×728mm

インクジェットプリント



Tadshiko OGAWA, Exhibition
Graph, Paper & Ink on Canvas
2006.3.20-25 am.11~pm.6
Gallery O

小川忠彦個展

2006年3月20日(月)~25日(土)

午前11時~午後6時

ギャラリーO

京都府中京区新町通御所上2-211

小川忠彦

個展ポスター

2006年

1030mm×728mm

インクジェットプリント